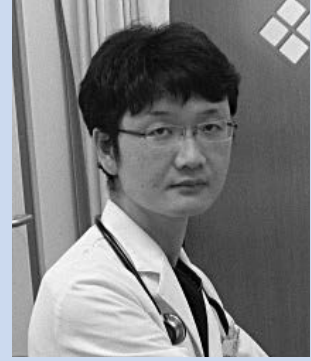


私のカルテ

No 3 7 5

のう こう そく
脳梗塞について津島市民病院
神経内科医師八木
孝雄

脳卒中は脳の血管の障害により生じた脳機能の障害のことです。血管が閉塞する脳梗塞、脳の中に出血が起きる脳出血、脳の表面に出血するくも膜下出血があります。日本人の死因の第4位で、誤嚥性肺炎ごえんの原因にもなり、寝たきりの最大の原因です。

今回お話しさせていただく脳梗塞は、脳の血管が血栓という血の塊で閉塞し、脳の神経細胞が酸素や栄養不足になり障害される病気です。動脈硬化が原因となるタイプと不整脈が原因となるタイプの大きく2つに分類されます。

動脈硬化が原因となるタイプ

「ラクナ梗塞」と「アテローム血栓症」という2つがあります。いずれのタイプも脳梗塞になった部位により症状は様々で、治療していても症状が悪化することがあります。

「ラクナ梗塞」は脳の細い血管が閉塞して生じます。範囲は狭いですが、部位によっては重い後遺症を残すことがあります。「アテローム血栓症」は頸動脈けいから脳の太い血管が閉塞して生じ、広範囲の脳梗塞となります。脳梗塞になる前に一時的な手足の麻痺やしゅべりにくさなどの症状が出現することがあり、一過性脳虚血発作と言われます。よくなったとしても、脳梗塞の前触れですので、速やかな治療開始が必要です。

不整脈が原因となるタイプ

不整脈が原因となるタイプは心原性脳塞栓症と言われます。これは心房細動という不整脈が主な原因です。心臓の左心房という箇所が細かくふるえ、その中で血液が滞ることで血栓が形成されます。この血栓により脳血管が閉塞されることで脳梗塞を生じます。突然太い血管が閉塞するため、重症な脳梗塞となり、命に関わる場合もあります。

予防について

脳梗塞になると何らかの後遺症が出るが多いため、予防が肝心です。いずれのタイプの脳梗塞でも高血圧、糖尿病、脂質異常症といった生活習慣病の管理が重要です。減塩、野菜を中心としたバランスの良い食事、禁煙、節酒、適度な運動、十分な睡眠といった生活習慣を心掛ける必要があります。これでも改善しないときは、降圧薬や糖尿病の薬、コレステロールを下げる薬などを使用します。これらに加えて、心房細動がある人に対しては、年齢、性別、既往歴などから脳梗塞の危険性が高いと判断される場合には、抗凝固薬(いわゆる血液をサラサラにする薬)を内服していただきます。

早期対応

いち早く対応するために「FAST」を覚えましょう。これは脳卒中全般の早期対応のポイントを示したものです。F(face:笑顔の左右非対称)、A(arm:腕を上げたときに片側だけ下がってしまう)、S(speech:呂律が回らない)、という症状を見たときは、T(time:時間)、すぐに救急車を呼びましょう。発症してしまった場合でも、迅速に対応すれば症状を軽くできることがあります。脳梗塞では、発症から4時間半以内であれば血栓を溶かす薬が使える場合があります。それ以降でも、症状や画像所見によっては、血栓回収療法がおこなえる場合があります。

若い人でも注意すべき病気です。なった後の治療よりも、ならないことが重要です。一度ご自身の生活習慣を見直してみてもいいでしょうか。

